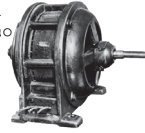




1910 ・ 創業、5馬力誘導電動機を完成。

久原鋳業所日立鉦山付属の修理工場として発足。



1911 ・ 2kVA変圧器を完成。

1914 ・ 交流電流計・電圧計の製作を開始。

1916 ・ 10,000馬力水車を完成。
・ 扇風機の製作を開始。

1920 日立・亀戸の両工場を擁し、株式会社日立製作所として独立。



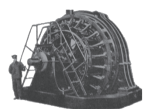
1921 日本汽船株式会社より笠戸造船所を譲受、笠戸工場増設。

1924 ・ ED15形電気機関車を完成
(大型の国産第1号)。



1930 ・ 柱上変圧器の製作を開始。

1931 ・ 10,000A水電解槽を完成。
・ 6,000kW回転交流機を完成。



1932 ・ エレベーターの製作を開始。
・ 電気冷蔵庫の第1号を完成。



1933 ・ 23,600馬力イルグナセットを完成。

1937 国産工業株式会社を吸収合併、戸塚工場など7工場増設。

1939 多賀工場新設、日立工場より日立研究所独立。

1940 ・ 5,000回線私設自動交換機を完成。

水戸工場新設。

1942 ・ 国産電子顕微鏡第1号製品のHU-2形を完成。

1943 ・ 85,000kWフランス水車、70,000kVA交流発電機を完成。

理研真空工業株式会社を吸収合併、茂原工場増設。

1944 亀有工場より清水工場独立。
多賀工場より栃木工場独立。



1949 ・ U05パワーショベル
第1号機を完成。



1951 ・ 6,500kWカプラン水車・7,000kVA交流
発電機を完成(国産初の傘形発電機)。

1952 ・ 21,000kW2段タービンポンプを完成。

- 1953** ・ 純低圧式300m³/h空気分離装置を完成。
 ・ 55,000kW水素冷却式タービンを完成。

- 1954** ・ 大型ストリップミル国産第1号機を完成。

- 1955** ・ 10万kWフランス水車、93,000kVA交流発電機を完成。

- 1956** ・ DF90形ディーゼル電気機関車を完成(国産初)。

日立金属工業株式会社(現 日立金属株式会社)、日立電線株式会社分離独立。

- 1957** ・ デジタル計算機の
パラメトロン電子計算機
HIPACMK-1を完成。



日立工場より国分工場独立。

- 1958** ・ 6石トランジスタ超小型ポータブルラジオを完成。

- ・ ブリュッセル万国博でHS-6型電子顕微鏡・HM-3型電子顕微鏡がグランプリを受賞。



- 1959** ・ HITAC301電子計算機(トランジスタ使用)を完成。

横浜工場新設。
トランジスタ研究所を武蔵工場と改称。

- 1960** ・ キュービックタイプ冷蔵庫を開発。
 ・ 国鉄用座席予約システム(MARS-1)が完成。



- 1961** ・ 全自動洗濯機を開発。
 ・ 日立実験用原子炉を完成。

多賀工場より那珂工場独立。
勝田工場新設。

- 1962** ・ 発熱自硬性鋳型を開発。

神奈川工場新設。

- 1963** ・ 265,000kW衝動再熱式クロスコンパウンド式タービンを完成。

亀戸工場より習志野工場独立。
日立化成工業株式会社分離独立。

- 1964** ・ 東海道新幹線用電車を製作。



- ・ 羽田・浜松町間用モノレールを完成。

- 1965** ・ HITAC5020システムを完成。

- ・ 希土類蛍光体使用19型90度偏向カラーブラウン管を完成。

- 1966** ・ シリコントランジスタのLTP処理法を開発。

機械研究所新設。

- 1967** ・ ドライタイプルームエアコンを開発。

多賀工場より佐和工場独立、横浜工場より東海工場独立、神奈川工場より小田原工場独立。



- 1968** ・ 超高速論理ハイブリッドLSIを開発。
 ・ 制御用電子計算機HIDIC100を完成。
 ・ 300m/min超高層ビル用エレベーターを完成。

- 1969** ・ 銀行オンラインシステムを完成。

- ・ オールトランジスタカラーテレビを開発・量産化。
- ・ Lo-D2ウェイスピーカーシステムを開発。

ソフトウェア工場新設。
青梅工場新設。
大みか工場新設。
日立建設機械製造株式会社(現日立建機株式会社)分離独立。

1970 新幹線運転管理システム (COMTRAC)を開発。



高崎工場新設。



1971 大容量(1Gバイト)ファイル記憶装置を完成。

日立電子株式会社より旭工場を譲受。
生産技術研究所新設。

1973 新型撮像管サチコンを開発。

システム開発研究所新設。

1974 無収差凹面回折格子用数値制御ルーリングエンジンを開発。

- ・ 46万kW国産第1号原子力発電設備を完成。



- ・ 半導体組立の自動化(LSI・トランジスタのワイヤボンディングの自動化)を実現。

土浦工場新設。
亀戸工場を移転し、中条工場と改称。

1975 高性能伝熱面(サーモエクセル)を開発。

- ・ 日立新型圧延機HC-MILLを開発。

- ・ Mシリーズ大型コンピュータシステムを完成。



1976 世界初の光通信システム実証試験に成功。

- ・ 高速アミノ酸分析計(837型)を開発。
- ・ 新型転換炉原型炉「ふげん」の建設を完成。

1978 高分解能電界放射型電子顕微鏡 (分解能世界記録)を開発。

- ・ 固体撮像素子小型カラーカメラの試作を完成。

1979 HITAC Mシリーズ200Hを完成。

1980 北海道・本州間電力連系用300MW 交直変換設備の完成。

1982 電子線ホログラフィーによるマイクロ領域の磁場観察を世界で初めて実現。

1983 スクロール圧縮機搭載空調機の開発。

- ・ 国産初のスーパーコンピュータ「S-810」を完成。

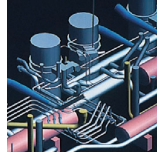
1984 改良標準型BWR国産第1号機の完成。

- ・ 256kビットDRAMの量産化。



1985 臨界プラズマ試験装置JT-60の完成。

- ・ 超高精細カラー表示
CAD/CAEシステムの開発。



基礎研究所新設。



- 1986 ・ HITAC M-68Xシリーズの完成。
- 1987 ・ 予見ファジィ制御の実用化。
・ カラー液晶投射式大型ディスプレイ装置の完成。
- 1988 ・ 4脚動歩行ロボットの開発。
- 1989 ・ 世界最高速の超電導コンピュータの開発。
・ 超電導MRイメージング装置の開発。
- 1990 ・ 超大型汎用コンピュータ「HITAC M-880
プロセッサグループ」の開発。
・ 高精細TFTカラー液晶ディスプレイの開発。
- 1991 ・ 世界最大容量(狭軌道)インバータ式
電気機関車の開発。
・ アバランシェ増倍型撮像管
「ハーピコン」の開発。
 - 佐和工場を自動車機器事業部に統合。
勝田工場を素形材事業部に統合、戸塚工場を情報通信システム
事業部に統合、那珂工場を計測器事業部に統合。
- 1992 ・ 基幹系500kV変電所システムの完成。
・ 走査トンネル顕微鏡を用いた原子操作・
原子配列状態観察基本技術の開発。
 - 横浜工場および東海工場をAV機器事業部に統合。
家庭電器、コンピュータおよび電子デバイス担当部門の組織を
工場単位から事業部単位へ変更。

- 1993 ・ 高速新幹線電車300系の開発。
・ 単一電子メモリーの室温動作に世界で
初めて成功。
・ キャピラリーアレイDNAシーケンサーを
開発。

半導体設計開発センタ、武蔵工場および高崎工場を
半導体事業部に統合。
清水工場を空調システム事業部に統合、中条工場および
習志野工場を産業機器事業部に統合。

- 1994 ・ 日立オリジナル32ビットRISC
SHマイコンシリーズの開発。
・ クリーンATMの開発。
・ 1GビットDRAMの試作に成功。

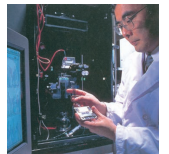
家電事業本部および情報映像メディア事業部を統合して
家電・情報メディア事業本部と改称。

- 1995 ・ 超広視野角スーパーTFT
液晶ディスプレイを開発。



- ・ 10Gビット/s光通信装置の開発。
- ・ 暗号アルゴリズム「MULTI 2」の開発。
 - 電力・電機、家電・情報メディア、情報および電子部品事業を
事業グループとして編成し、併せて研究開発部門の一部と
営業部門を事業グループに統合。
株式会社日立家電を吸収合併。

- 1997 ・ 4.7GバイトDVD-RAM基本技術の開発。
・ 心臓疾患検査用心磁計測技術の開発。
・ ガン治療用小型陽子線加速器の開発。
・ DNAシーケンサーを開発。



- 1998 ・ 320Gビット/s光波長多重伝送システムの
開発。
・ PAM制御方式冷蔵庫・エアコンの開発。
 - 情報グループと家電・情報メディアグループを情報グループ、
情報メディアグループおよび家電グループに再編成。

1999

- ・ リチウム二次電池をマンガン系で実用化。
- ☒ 事業グループを再編成し、それぞれを実質的独立会社として運営する経営体制に変更。
ライフサイエンス推進事業部新設。

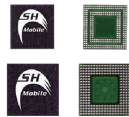
2000

- ・ 約6.45cm²(1インチ平方)当たり52.5Gビットの垂直磁気記録方式の開発。
- ・ 分解能49.8ピコメートルのホログラフィー電子顕微鏡の開発。

- ☒ i.e.ネットサービスグループ新設。
Net-PDAベンチャーカンパニー新設。

2001

- ・ モバイルWebゲートウェイシステムの開発。
- ・ 携帯電話向けアプリケーションプロセッサ「SH-Mobile」の開発。



- ☒ 計測器グループおよび半導体製造装置グループを会社分割、株式会社日立ハイテクノロジーズ(旧 日製産業株式会社)を承継会社として再編成。

2002

- ・ 世界最小0.3ミリ角の非接触ICチップを開発。
- ・ 小型遺伝子多型解析装置を開発。



- ☒ 産業機器グループを会社分割、株式会社日立産機システムとして再編成。
ディスプレイグループを会社分割、株式会社日立ディスプレイズとして再編成。

2003

- ・ 小型・高速・高精度の指静脈認証技術を開発。
- ・ 光トポグラフィによる新生児脳機能計測に成功。
- ・ 小泉フェロー「ローマ法皇庁科学アカデミー400周年記念シンポジウム」で講演。



- ☒ 米国IBM社からハードディスクドライブ事業を前年12月に買収し、株式会社日立グローバルストレージテクノロジーズを設立。
半導体グループを会社分割、株式会社ルネサステクノロジとして再編成。

2004

- ・ 電池寿命1年以上、世界最小容積のセンサネット用端末の開発。
- ・ 高温無鉛はんだペーストの開発。
- ☒ 本店を東京都千代田区丸の内一丁目6番6号に移転。
トキコ株式会社および株式会社日立ユニシアオートモティブを吸収合併。

2005

- ・ 爆発物探知装置の開発(米国運輸保安局認証取得)。
- ・ 人と対話して行動する2輪走行ロボット「EMIEW」を開発し「2005年日本国際博覧会(愛・地球博)」で披露。



2006

- ・ シリコンの薄膜素子に電流を流すことによって発光する現象を確認。
- ・ 光トポグラフィを用いたブレイン・マシン・インタフェースの原理実験に成功。
- ・ 垂直磁気記録方式を採用した2.5型HDD量産化。

- ☒ 電機グループの一部を会社分割、株式会社日立プラントテクノロジー(旧日立プラント建設株式会社)を承継会社として再編成。
ビジネスソリューション事業部を株式会社日立コンサルティングに移管。

2007

- ・ 世界最小0.05ミリ角の非接触ICチップを試作。
- ・ スピン注入磁化反転方式を用いた2メガビットの不揮発性RAMチップの試作。
- ・ 小型軽量な対話型ロボット「EMIEW2」を開発。



- ☒ 原子力事業を会社分割、日立GEニュークリア・エナジー株式会社を承継会社として再編成。

2008

- ・ 高速ディーゼルハイブリッド鉄道車両向けリチウムイオンバッテリーシステム技術の開発。
- ・ レアメタルを用いない高効率の小型モータ技術を開発。

2009

- ・ 3kV級SiCダイオードの試作。

- ・ 車載用リチウムイオン電池の開発。



- ・ 薄型指静脈認証技術の開発。

株式会社日立コミュニケーションテクノロジーを吸収合併。カンパニー制を導入し、「電力システム社」「社会・産業インフラシステム社」「都市開発システム社」「情報制御システム社」「情報・通信システム社」「ディフェンスシステム社」の6つのカンパニーを設置。

- 2010**
- ・ データセンターの省電力化技術を開発。
 - ・ レアアースのリサイクル技術を開発。
 - ・ スピン流の制御・観測に成功。

スマートシティ事業統括本部および電池システム社を新設。



- 2011**
- ・ 小泉英明フェローが中国工程院の院士に選出。
 - ・ スポットスキニング方式の陽子線がん治療システム(PBT)が国内製造認可。
 - ・ 広域ネットワーク(WAN)の高速化技術開発。



社会・産業インフラシステム社を交通システム社および社会・産業システム社に再編成。ヘルスケア統括本部を新設。

- 2012**
- ・ 「電界放出形電子顕微鏡の実用化」が「IEEEマイルストーン」に認定。
 - ・ レアアースを用いない産業用11kW高効率永久磁石同期モーターを開発。
 - ・ 再生医療向けヒト細胞シート自動培養装置を試作。

トータルソリューション事業部、ヘルスケア統括本部、スマートシティ事業統括本部を再編成し、社会イノベーションプロジェクト本部を新設。

グループ制を導入し、「電力グループ」「インフラシステムグループ」「情報・通信グループ」の3つのグループを設置。

- 2013**
- ・ 自律走行する一人乗りの移動支援ロボット「ROPITS」を開発。

- ・ 生体情報を用いた電子署名技術を開発。
- ・ 高線量率環境対応のガンマカメラを開発。

株式会社日立プラントテクノロジーを吸収合併。

- 2014**
- ・ 原子分解能・ホログラフィー電子顕微鏡を開発。

- ・ 「組織活性度」を計測できるウェアラブルセンサを開発。

- ・ ウォークスルー型指静脈認証技術を開発。

火力発電事業を会社分割、三菱日立パワーシステムズ株式会社を承継会社として再編成。

- 2015**
- ・ 人工知能「Hitachi AI Technology/H」を開発し、ソリューション事業を開始。

- 2016**
- ・ IoTプラットフォーム「Lumada」を立ち上げ、事業を開始。

ヘルスケア事業強化に向けた株式会社日立メディコ、日立アロカメディカル株式会社の吸収合併および製造子会社設立。日立がカンボジアに昇降機の合弁会社を設立。

- 2017**
- 日立がイギリスのテンプル社を買収し、欧州の昇降機市場に参入。

- 2018**
- ・ イタリアで高速鉄道向けの信号・運行管理システムなどを受注。

インド最大の国営商業銀行であるState Bank of Indiaと合弁会社設立。